

特集 西胆振の将来を考えて

～第2回西胆振地域連携フォーラム～



11月12日(月)、西胆振圏の新たな地域連携や将来の西胆振圏の姿などについて考える『第2回西胆振地域連携フォーラム』が登別市民会館で開催され、釧路公立大学教授・小磯修二さんによる基調講演と西胆振の3市3町の市長・町長と住民などによるパネルディスカッションが行われました。
今月号では、その内容についてお知らせします。

本格的な少子高齢社会を迎え、生産年齢人口が少なくなり、さらに地方においては大都市への人口流出が続いています。そのため、税収が減少し、市町村の財政状況が苦しくなる一方、保健・福祉などの行政サービスの多様化、高度化が求められています。

さらには、地方分権を推進するため、国や北海道がこれまで行ってきた事務や権限が住民に最も身近な基礎自治体である市町村に移され、住民のニーズに基づくまちの実現を目指す、総合的な施策を展開することがこれまで以上に求められています。また、通勤や通学、買い物などの日常生活圏の広がりや情報化の急速な進展などにより、わたしたちの生活圏域は居住する市町村の枠とは一致しなくなってきました。

そのため、市町村は地域の特色を生かした魅力あるまちづくりを進めるとともに、最小限の経費で質の高い行政サービスの提供していく必要がありますが、規模の小さな市町村が廃棄物処理や医療、消防活動などについて個々に取り組んでいくことが困難となってきました。広域的な視点に立ったまちづくりや行政課題の解決策を考える必要性が高まっています。

これらの背景から、昨年、『第1回西胆振地域連携フォーラム』が開かれ、今後の西胆振の広域連携のあ

り方や将来の西胆振圏の姿などについて、西胆振3市3町の首長と議長・住民による意見交換が行われました。このフォーラムでは、『西胆振は一つ』『20万都市を目指そう』など、将来の西胆振圏の目標が確認され、平成19年6月には、西胆振圏の将来のあるべき姿などを探る『西胆振圏の将来を考える研究会』が6市町合意のもとに設置。西胆振圏の広域連携のあり方や西胆振圏を一つとしたまちの姿などについて研究を行っています。

また、平成19年7月には、『西胆振広域圏振興協議会』が西胆振に住んでいる20歳以上の住民から、無作為に3千人を抽出し、日常生活における地域交流の実態などを把握するためのアンケート調査を実施しました。

今回のフォーラムは、昨年のフォーラムで共有した目標や西胆振広域圏振興協議会でのアンケートなどの結果を踏まえ、より具体的な西胆振圏の将来像などを模索するために、第1部は釧路公立大学の小磯修二教授が、『創造的なまちづくりを目指して』というテーマで基調講演が行われ、第2部は新たな広域連携や将来の西胆振のまちのあり方などについてパネルディスカッションが行われました。

それでは、基調講演とパネルディスカッションの一部を紹介します。